

会 議 名	第3回 MINATO まちなかコンサート企画・運営等業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和7年3月5日（水曜日）午後6時から午後8時30分まで
開催場所	港区役所9階 915会議室
委 員 員	出席5名 ・田中 真実（委員長） ・文化芸術事業連携担当部長 横尾 恵理子（副委員長） ・梶 奈生子（委員） ・澤藤 歩（委員） ・教育委員会事務局教育推進部生涯学習スポーツ振興課長 中林 淳一（委員）
事 務 局	地域振興課文化芸術振興係
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1）B事業者 （2）D事業者 4 第二次審査結果及び事業候補者の決定について 5 その他 6 閉会
配付資料	〔席上配付〕 次第 資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点表（2事業者分） 資料3 第一次審査・第二次審査集計結果（※採点終了後、机上配布） 資料4 第2回選考委員会会議録 参考資料 第一次審査集計結果
会議の内容	
事務局	【1 開会】 （事務局より配布資料の確認）
事務局	【2 第二次審査実施概要について】 資料1について説明
委員長	これより、プレゼンテーションとヒアリングに入る。事業者のプレゼンテーション及び質疑応答が終了するまで、事務局で進行及び時間管理をお願いしたい。 【3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】

B事業者	〈プレゼンテーション〉
事務局	各委員からの質問をお願いしたい。
A委員	アウトリーチについて、プレゼンテーションの内容から子ども向けであるような印象を受けた。多様性の観点から、障がい者や高齢者も対象に入ると思うが、その辺りはどのように考えているか。
B事業者	もちろん高齢者や障がい者も対象にしている。プレゼンテーションでは子ども向けの内容を取り上げているが、どちらかというと文化芸術の初心者や、なかなか触れる機会が無い方々を対象にしたいと思っているので、幅広い方々を対象にしたい。また、子どもの育児や、介護をしている家族の方々に向けてしっかり届けたいと思っており、自分のための時間を過ごせるきっかけを作ればよいと考える。
C委員	介護者についても考えているようだが、その場合はその方々が介護を離れて会場に足を運ぶことを想定しなければならない。そのことが見積書上には計上されていないが、どのように考えているか。
B事業者	介護施設や障がい者に向けてこういったコンサートやアウトリーチを実施したことはある。その時に一番大事なことは、まずなじみのある場所に集まってもらうことだと考えるため、会場を別にとるというよりは、介護施設や保育園などを直接借りて、介護をしている家族の方も一緒に聴いてもらうという方法を取る。障がい者は、我々では感じ得ない表情の変化や感情が高ぶったときの仕草があるが、やはり家族の方々はその敏感に感じ取ることもあり、その姿を見て感動し、一緒に聴けて良かったという感想をもらうこともある。そういったことを港区でもできればと考えている。アーティストは私たちが声をかけ、その上でアーティストと一緒にテーマを決めていく。はじめからテーマを決めるというより、区内の課題を共有して一緒に決めていくというイメージである。
C委員	福祉の現場に直接伺うことを想定していると考えてよいか。
B事業者	そう考えている。
C委員	ロビーコンサートとまちなかコンサートに関しては、手話通訳や介助者が見積書に計上されていないが、それについては算出しているのか。
B事業者	ロビーコンサートとまちなかコンサートについてはそこまでは計上しておらず、まず一般の方々が対象になると考えている。今ある予算の中からそういった部分が捻出できるかは検討する。
C委員	3人の担当者と本部のバックアップで運営するとのことだが、当日は本部の方たちと一緒に運営するという認識でよいか。

B事業者	どういう風にチームを組むかは実際に借りる会場によると考える。ロビーコンサートであれば我々3人で対応することは十分可能であると考えている。我々自身もコンサートの案内を経験しているメンバーである。
C委員	当日来る客は何人くらいを想定しているか。
B事業者	ロビーコンサートにおいては30～50人程度を想定している。まちなかコンサートは100人程度ということなので、対応できる会場を選定しようと考えている。企画書に記載している本部の30人は、当日会場で案内を行うスタッフを取りまとめるマネージャーの人数なので、実際に案内できるメンバーの人数は300～400人程度いる。
C委員	大人数が来ても問題が無いように体制を整えてほしい。
B事業者	会場の規模や対象者によって、そのあたりの動線や安全配慮については考える必要があると思っている。
C委員	ロビーコンサートでストリートピアノをやりたいということだが、見積書に計上されているピアノのレンタル費は、このストリートピアノを想定しているのか。
B事業者	ロビーコンサートは年に5回程度あると認識しているが、そのうちの半分はピアノを使うと想定しており、見積書にはその分を計上している。大体1回5万円のレンタル費用であると考えている。
C委員	5万円ということは電子ピアノを想定していると思うが、例えばクラシックのピアニストの場合はどうするのか。
B事業者	その場合は電子ピアノであることを了承してもらい出演してもらおう。どうしてもという場合は、アップライトのピアノであれば今の予算でも対応できると思うので、会場の都合も考慮した上で決める。まちなかコンサートでは様々な施設と連携しながらやることになるので、ピアノ使用の有無も選定に一つになると考える。できる限り良い環境で鑑賞できるということは考えていきたい。
A委員	ライブ配信の後アーカイブ配信することは評価する。しかしアーカイブ配信となると著作権の問題がある。見積りにはそのあたりは織り込み済みか。
B事業者	アーカイブ配信で1時間のコンサートを全て配信しようとは考えておらず、著作権をクリアできる曲を選定したり、リハーサルの様子を撮影したり、コンサート前の意気込みを撮影するなどし、そういったものを含めてアーカイブで配信しようと考えている。逆に言うと、アーカイブ配信で全部見せてしまうとそこで満足してしまうので、現地に行かないと聴けないという風に思ってもらえる配信をしたい。裏側を見ることで興味を深めてもらうといったことも考えている。
A委員	見積金額の中で報告書の割合が高いと感じるが、他の予算に影響は無いか。

B 事業者	現在、3つの業務を均等に分けているが、やはりそれぞれ連携させるためにクロス分析も含めて考えている。ものによっては我々で分析しきれないものを外部に頼むということも見積りの中で計上し、我々で対応できる場合はその予算は別の予算に投じることは考えられる。やはり事業の継続発展の中では、検証が大事だと捉えている。
D 委員	広報について、アウトリーチの部分は周知の仕方が、いわゆる集客の仕方と異なると思うが、どのように実施施設に手を挙げてもらうのかなど選定方法はどのように考えているのか。
B 事業者	選定については、こういった施設があるのかをきちんと把握し、直接声掛けを行う。また、港区の担当課に協力してもらい、興味があるところに話を伺う。実施施設が決まれば、例えばスマホで連絡できるツールもあるかと思うので、そういったものを通じて周知を行いたい。アウトリーチについては外向けということではないと思うので、チラシをきちんと作成し、確実に来ていただきたい方に届けるつもりである。
C 委員	アウトリーチの出演者について、1つのアーティストに限定して同じ方に来てもらうことで予算的に収めていると思うが、出演料の高い方はこの金額では出演してもらえないのではないか。
B 事業者	アウトリーチの中で、特に「3匹の子ぶた」という企画に関しては、他の公共の文化施設でも実施している。その中で特に出演者の中嶋氏については、こういった活動を、社会に還元するための1つの軸にしたいとおっしゃっており、実際に額の交渉はしていないが、やるのであれば出演料は少額でも良いと伺っている。出演料の交渉は今の予算の中で納めたい。
E 委員	企画提案書では、サントリーホールやサントリー美術館、ブルーノートなど区内にあるものを連携先としているが、企画提案書を読めば魅力的には映るが、御社が受託した場合は実現可能性が高いと考えてよいか。また、まちなかコンサートについては100人程度の見込みで会場を選定するとのことだが、大使館や水上バス、屋形船では人数があまり入らないと思うので説明してほしい。
B 事業者	まず連携先については、我々が指定管理で事業をしている中で既に連携している事業者を記載しているため、実現性は高いと思っている。2つ目の質問については、例えば大使館でもどこの大使館にするかはこれからになるが、例えば我々の経験ではカナダ大使館などは100人程度入れる場所があるので、検討の一つの交渉材料になると考える。また、屋形船に100人入れるのは難しいと思うが、アイデアとして、観客は陸上にいてステージが船上というやり方もあると考えている。昨年10月のまちなかコンサートの際に、ステージは地上だったが、船が並んでいる様子を見てアイデアとして浮かんだ。
B 委員	業務体制において担当者が3人となっているが、これは専任でやってもらえるということか。また、この企画書の内容が港区ならではで、国際色豊かで大使館連携もありとて

B事業者	も良い視点で企画されているが、具体的に大使館の協力を得るためのノウハウはあるのか。 体制については、我々も様々な施設を運営しているため、そのノウハウや知見を本事業で活かしたいと思っている。担当者3人については専任という形だが、厳密にいうと他の業務に入るのが実情である。大使館との実績については、大使館でのコンサート企画の経験はあまりない。しかし、大使館での講演やイベントに参加させてもらうという関係性は築いている。
事務局	質問は以上とする。 〈B事業者退出〉
事務局	これから採点表記入の時間とする。採点表は、全ての事業者についての採点が完了次第、回収する。
D事業者	<プレゼンテーション>
事務局	各委員からの質問をお願いしたい。
C委員	アウトリーチについて、対象が子ども向けであるという印象だが、障がい者へのアプローチはどう考えているか。
D事業者	アウトリーチについては、障がい者というよりも、普段音楽で潤いを満たされていない、潤いを得られていない方々に向けて、それを身近なものとして接することができる事業であると感じてもらいたい。例えば今回企画を3種類提案しているが、企画に載っていない、例えばダンスなども可能である。
A委員	アウトリーチ先はどのようなイメージを持っているか。
D事業者	区有施設、特にみなと子育て応援プラザP o k k eなどを考えている。
C委員	各事業どのくらいの方々が参加することを想定しているか。
D事業者	まちなかコンサートについては想定として各回 100 人は参加してほしいと考えている。特に屋外に関しては人数を制限することが難しいので優先エリア、フリーエリアという形で分けて運用できればと思っている。現在、場所は芝公園を提案しているが、その場合は数百人単位になると考える。それ以外のホール、屋内に関しては 100～150 人程度で、より身近に感じてもらえるように提案している。
C委員	チラシ等を、広報が届きにくい人に届けることが重要だと考えるが、どう届けるのか。
D事業者	チラシは紙媒体で実際に手渡すことが最終的なところだと考える。目につく場所に配架

	もできるが、ウェブサイト上でチラシをPDF形式で都度見せ、そのキービジュアルで発信していくことの方があらゆる人たちにとって近道だと考えている。
C委員	大体何人くらいが広報を見ると想定しているか。
D事業者	我々の公式ウェブページの月間アクセス数は 800 万台で、その中のニュースサイトにおいてロビーコンサートやまちなかコンサートが可能である。ここはメディアの方も見に来る場所で、月間 100 万回の閲覧回数があり、加えて今回提案したアーティストの SNS の総フォロワー数は 18 万弱あるので、それくらいの人数に告知できる。我々の SNS もフォロワーが合計で 25 万人を超える。加えて我々のオウンドメディアだけではなく、エンタメのニュースとしてもリリースする。これは 300 メディアに発出し、平均すると 30 媒体で記事として掲載され長く残る。
D委員	企画の「ミナト・ミュージック・インクルージョン」という考え方は、誰一人取り残すことなくという部分に関わると思う。アウトリーチの中で子どもたちに、という話もあったが、ロビーコンサートやまちなかコンサートにも視覚や聴覚に障がいを持つ方が来るケースもあり、手話通訳がセットになっているライブも増えてきていると思うが、今回の企画でもそういった可能性はあるのか。
D事業者	手話通訳については、まちなかコンサート、特に不特定多数に対して屋外で行う場合などについて想定している。加えてまちなかコンサートでは配信を行うので、字幕やテロップでも補完できると考えている。アウトリーチに関しては 15 名程度を想定しているので、その方々の特性に合わせて必要に応じて用意をする。
B委員	港区ならではの特色や特徴をどのように捉え、どう企画に活かそうとしているかを確認したい。
D事業者	例えばまちなかコンサートでは、出演予定者の有坂美香氏が港区観光大使であり、多種多様な国籍や年齢層の方々を相手に 6 度ほどステージを作ってきた。彼女の起用は港区らしさが色濃く出ると考えている。我々も、6 回に渡る文化芸術フェスティバルで、外国に由来のある方が多いという印象を持っている。それに対し日本ならではのもので、分かりやすく、幅広い年齢層の方々に楽しめるものを提案している。日本人でも再発見でき、外国に由来がある方でも日本独自のものを喜んでもらえればと思っている。出演予定者の優河氏は様々な国の音楽ジャンルをルーツに持っており、ワールドワイドに活躍しているアーティストであるため提案している。これらのアーティストが参加できること自体が港区ならではのと考えている。幅広く国際的な方が積極的に関わる街だと思っている。我々の事業所の本拠地も港区になるので、楽しい事業にしたい。
E委員	実施体制について、基本的に担当者 2 人で実施するのか。それ以外にどういった人が関わるのか。
D事業者	実施体制については提出した資料のとおりである。来場者が多い場合は適宜人を増やす。

	不測の事態があった場合も対応は可能である。アーティストについても不測の事態に対応できるようにする。
E 委員	見積書のスタッフ人件費、運営人件費、全て一式になっているが、それぞれ会場や来場者数を意識して算出されているか。
D 事業者	ロビーコンサートに関してはピアノレンタルを3回ほど想定しているので、その搬入を5人程度で行う想定である。まちなかコンサートについては会場により異なるが、屋内の場合、100～150人の客が来た場合は10人程度で実施する想定である。アウトリーチの場合はどのような方が来るかによるが、基本アーティストを抜いて3～5人で想定している。
	【4 第二次審査結果及び事業候補者の決定について】
事務局	各委員が採点した集計の結果、B事業者は500点満点で合計389点、D事業者は500点満点で326点となった。審査に当たり評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いしたい。
B 委員	B事業者については、提案書を見た段階で港区の特色的なところをしっかりと押さえていると感じた。プレゼンテーションの時にもその部分を確認したところ、この企画は何を港区としてやりたいかに加え、子育てをしている方だけではなく様々な方に音楽や芸術に触れてもらいたいという部分をしっかりと理解していると感じた。また、著作権についても考えていると回答しており、全体的に好印象を受けた。一方でD事業者は、エンタメ力や発信力は魅力的だと感じたが、それは若い人にはマッチすると思うが、例えば障がい者に対してはどうするのかについてはやや抽象的であると感じた。加えて各コンテンツが人物に頼っているとも感じた。
E 委員	B事業者については、港区の資源をうまく活用する提案がベースになっており、普段音楽に触れていない方の底上げを図るような目的を打ち出していた点は良かった。しかし資源活用以外の部分では、港区ならではの独創性が感じられなかった。自社のリソースを踏まえた無理のない提案になっており、実現性は見込めると感じた。D事業者については区が不得手としている発信力という部分は補ってくれると感じた。企画も歌で行くという強いメッセージ性を感じ、まずは1年これで行くという手法は面白いと感じた。
C 委員	B事業者については様々な提案があり、それがどう会場とマッチしていくのか期待されるものがあると感じた。ブルーノートは行政と一緒にやるといったことは今まで無かったと思うので、実現すれば事業の注目度が長期的に変わっていくのではと期待している。また、過去のノウハウを活かしつつ色々対応してもらえるのではと期待している。D事

	業者については、企画書に記載されていることについては説得力があるが、話を聞いていると、いかにアーティストを売っていくかという風に聞こえた。
A委員	D事業者については発信力の点では強いと思ったが、チャンネル登録者数が多ければ良いというものではなく、登録しても見ないということはあるので、どのくらいの人が引っかかるのかが疑問である。また、D事業者は提案が少々指示待ちになりそうだと感じた。柔軟性を持って企画を一緒に作るという点では、やはりB事業者の方が色々話はできるのではと思った。
D委員	やはり公的な事業では、届かない層にどう届けていくかが一つのキーになってくるとは思うが、両者ともに実はあまりリサーチできておらず、やはりどういうことがありうるのか、何が起こるのかに関して積み重ね方が難しい分野だと改めて感じた。その点については行政の方がリソースを持っており、少なくとも障害者福祉課等とのセクションとのやり取りもあると思うので、ぜひつなげる部分はつないでほしい。もう一点は、コンサートの部分に関しても情報保障の部分を仕様書に入れても良いと感じた。
事務局	各委員からの講評を踏まえて、追加の発言や点数を変更したい方はいるか。 〈なし〉
事務局	改めて集計結果を発表する。第二次審査の得点はB事業者が389点、D事業者が326点となった。また、第一次審査との合計得点は、B事業者が1149点、D事業者が982点となった。審査結果や各委員からの意見を統括し、当委員会としてはB事業者を事業候補者として選定することとするがいかがか。 〈異議なし〉 【5 その他】
事務局	本日決定した事業候補者を、港区契約事務規則に従い業者選定委員会に推薦し、審議を経た上で区として契約について決定する。 【6 閉会】